

八千代市産業振興審議会概要

- 1 会議名 八千代市産業振興審議会
- 2 日時 令和元年11月29日(金) 午前10時から11時58分まで
- 3 場所 八千代市役所別館2階 第1・第2会議室
- 4 議題 (1) 会長選出について
(2) 副会長選出について
(3) 産業振興について
(4) 次期産業振興ビジョンについて
- 5 出席者 **【委員】** 八千代商工会議所副会頭 飯田明彦
八千代商工会議所専務理事 田中宏行
八千代市商店会連合会長 山崎行夫
八千代市工場協議会副会長 浅野正幸
八千代市農業協同組合参事 鈴木秀昭
八千代市園芸協会会長 土井智
八千代市畜産協会会長 高橋秀行
秀明大学観光ビジネス学部長・教授 市川友英
市民委員 橋山弘
【事務局】 経済環境部長 豊田和男
経済環境部次長 糟谷龍郎
商工観光課長 渡邊久貢
観光推進室長 神代信宏
農政課長 萩野光誠
商工観光課主査 蛭間寛
商工観光課主査 佐藤裕次
商工観光課主事 黒澤雄大
- 6 公開又は非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人(定員5人)

開 会

事務局（佐藤主査）

それでは定刻となりましたので、これより八千代市産業振興審議会を開催いたします。

私、本日司会を務めさせていただきます，商工観光課の佐藤と申します。よろしくお願いいたします。

まず、最初にお断りさせていただきますが、この審議会は、八千代市審議会等の会議の公開に関する要領の規定によりまして、公開の会議となっております。事前に会議の日程等公表し、傍聴することができることになっております。

また、会議資料，会議録等につきましても、公開の対象となるため、録音させていただきますので、ご了承のほどお願いいたします。

では、会議に先立ちまして市長よりご挨拶申し上げます。

服部市長

みなさん、おはようございます。

本日は、お忙しい中、産業振興審議会にご出席をいただきまして本当にありがとうございます。今日は農業関係の皆様もご出席でございますので、このたびの台風10号、19号、そして10月25日の、豪雨によりまして、特に農業関係の被害が大きく出ておりますので、心からお見舞いを申し上げたいというふうに思います。

さて本審議会でございますけれども、産業振興基本条例に基づき設置されたもので、農業、商業、工業、観光、各部門における、有識者の皆さんのお集まりでございます。平成24年度に答申をいただいております、八千代市第3次産業振興ビジョンで、令和2年度が計画期間の最終年度となっておりますことから、今までの取り組み等々皆さんに執行部の方から説明をさせていただいた上で、各業界の枠を超えて、専門的な皆さんの積極的なご議論を賜ればというふうに思っております。

本市も産業振興に力を入れているので、是非とも皆さんがたの忌憚のないご意見をいただいて、産業の振興に資して参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。ご挨拶に代えさせていただきます。

今日はよろしくお願いいたします。

事務局（佐藤主査）

ありがとうございました。

公務により、市長はここで退席させていただきます。

続きまして、本日配付いたしました資料の確認をお願いいたします。

1. 次第。
2. 席次表。
3. 名簿。
4. 八千代市産業振興基本条例，両面刷りになります。
5. 八千代市産業振興審議会規則，こちらも両面印刷になります。
6. 八千代市第3次産業振興ビジョン，A4の冊子になります。
7. ビジョン取り組み状況，A4，左1ヶ所綴じのものになります。
8. パワーポイント資料，両面のカラー刷り印刷の資料になります。

その他参考といたしまして，ビニール袋に入りました八千代ダイヤモンド富士のクリアファイルに入りました，産業のしおり，A5の冊子のほか，観光ガイドアプリ，ココシル八千代などのリーフレット，チラシ等がございます。

不足等ございませんでしょうか。

続きまして本日の審議会は，現審議会委員での初めての会議になりますことから，恐縮ですが，順番に自己紹介をお願いしたいと思います。

また，1点ご説明いたします。本日，皆様の前にマイクシステムがございます。このシルバーのボタンを押しますとマイクの先端が赤く光ります。そのままお話をください。話が終わりましたら，ボタンを押す必要はございません。次の話をする方が，同じようにシルバーのボタンを押しますと，前にお話した方のマイクは消えます。

飯田委員

商工会議所の副会頭を仰せつかっております飯田でございます。

職業は不動産業となっております。以上でございます。よろしくお願いいたします。

田中委員

商工会議所の専務理事を仰せつかっております田中と申します。

市のいろんな委員会では，まち・ひと・しごと創生懇談会の委員とか男女共同参画の委員，それからあと，子ども・子育て会議の委員等をやっております。よろしくお願いいたします。

山崎委員

おはようございます。八千代市商店会連合会会長の山崎でございます。よろしくどうぞ。

浅野委員

八千代市工場協議会副会長を仰せつかっています浅野正幸と申します。ひとつよろしく願いいたします。

鈴木委員

八千代市農業協同組合の参事を仰せつかっています鈴木と申します。本日はよろしく願いいたします。

土井委員

八千代市園芸協会の会長を務めています。土井智です。自分の経営は田んぼの方を法人で作っていきまして、あと、路地野菜の直売と、あとニンジンを選んで作っています。よろしくお願ひします。

市川委員

おはようございます。秀明大学観光ビジネス学部の学部長を仰せつかっております、市川でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

高橋委員

はい。八千代市畜産協会会長の高橋でございます。私は市内で酪農を営んでおります。よろしくお願ひします。

橋山委員

市民委員の橋山と申します。八千代市に来てもう 40 数年になりますので、今日は非常に楽しみにしています。よろしくお願ひします。

事務局（司会：佐藤主査，括弧内は各事務局職員）

ありがとうございました。続きまして、事務局のご紹介をさせていただきます。経済環境部長の豊田でございます。（豊田です。よろしくお願ひします。）
経済環境部次長の糟谷でございます。（おはようございます。糟谷でございます。よろしくお願ひいたします。）
商工観光課長の渡邊でございます。（渡邊です。よろしくお願ひします。）
観光推進室長の神代でございます。（神代です。よろしくお願ひいたします。）
農政課長の萩野でございます。（皆様いつもお世話になっております。農政課長の萩野と申します。本日はよろしくお願ひいたします。）
商工観光課主査の蛭間でございます。（蛭間でございます。よろしくお願ひいたします。）

同じく黒澤主事でございます。(黒澤と申します。よろしくお願ひいたします。)
最後になりますが、私は商工観光課の佐藤でございます。よろしくお願ひいたします。

続きまして、議事に入ります前に、本日の出席委員は9名であります。お手元の資料5、八千代市産業振興審議会規則第4条の規定によりまして、半数以上の議員が出席していますので、本日の会議は成立となります。

それでは議題に移らせていただきます。議題1、「会長選出について」でございます。本来ならば、委員の皆様の中から、仮議長を選出して進めていくところでございますが、時間の都合上、事務局の豊田経済環境部長を仮議長として進行することとしてよろしいでしょうか。(異議なしの声あり) ありがとうございます。

それでは豊田部長、前にお願ひいたします。

豊田仮議長

はい。それでは、会長が決まるまでの間仮議長を務めさせていただきますのでよろしくお願ひいたします。

議題1、会長の選出についてでございますが、八千代市産業振興審議会規則第3条1項の規定により、会長は委員の互選により定めることとなっております。また、その職務といたしましては、同2項の規定により、会務を総理し、審議会を代表していただくこととなります。どなたかいらっしゃいませんか。(はい、議長。) 山崎委員、お願ひします。

山崎委員

八千代市においては、商工会議所が商工業について網羅して、総合的な事業を展開しております。その中で商工会議所の飯田副会頭にお願ひしたいと思しますので、ご審議の方、よろしくお願ひ申しあげます。

豊田仮議長

はい。ただいま山崎委員より、飯田委員の推薦がありましたがいかがでしょうか。(異議なしの声あり) 飯田委員、いかがでしょうか。(はい、お受けします。) ありがとうございます。それでは、産業振興審議会の会長は、飯田委員に決定いたしました。

委員の皆様のご協力により会長が選任されましたので、以後の議事進行を会長にお願ひしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

飯田会長

それでは会長という職に就かせていただきます。本当に微力ではございますが、皆様のお力添えをいただきまして、実りある審議会としたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

それでは、これから議題にまた移りたいと思ひます。議題 2 副会長の選任について事務局から説明をお願ひいたします。

事務局（佐藤主査）

副会長につきましても、委員の互選により定めることとなっており、その職務といたしましては、会長を補佐し、会長に事故があるとき、または会長が欠けたときは、その職務を代理するとなっております。

飯田会長

はい、ありがとうございます。それではどなたかご推薦いただけませんかでしょうか。

山崎委員

本日のこの審議会につきましても農業団体の中で、幅広く見識を持ちながら活躍されております土井智さんになっていただくといいと思ひます。よろしくご審議を。

飯田会長

はい、ありがとうございます。ただいま山崎委員より、土井委員の推薦がありました。皆様いかがでしょうか。（異議なしの声あり）

はい、ありがとうございます。それでは、副会長として、土井委員が当たっていただけるということでよろしくお願ひいたします。

では産業振興審議会の副会長は土井委員に決定しました。よろしくお願ひします。それでは審議会の体制が決定しました。

次に議題 3、八千代市の産業振興について事務局から説明をお願ひいたします。

事務局（佐藤主査）

はい。事務局から産業振興についてご説明いたします。

皆様のお手元には資料の 4「産業振興基本条例」と資料 8、カラー印刷の資料を配付させていただきました。

本市では産業に関する基本的な事項を定め、産業の健全な発展を促進するために、平成 20 年度に産業振興基本条例を制定しております。

基本方針は、第3条に、「産業の振興は、事業者の自助努力を基に市、事業者、産業経済団体及び市民が協力して推進する」とされています。

第4条から第7条に市の責務並びに事業者、経済団体及び市民のそれぞれの役割が示されています。

本日皆様にお集まりいただいておりますこの産業振興審議会につきましては、第8条に定められています。

続きまして市では、将来都市像と、それを実現するための施策や事業をまとめた計画として、第4次総合計画を策定しています。

本市が持つ都市と自然とのバランスにすぐれた街としての特性を生かし、市民のだれもが誇りと愛着を持って暮らすことができる、安らぎに満ちたまちを創造していくため、第4次基本構想における本市の将来都市像を「快適な生活環境と安らぎに満ちた都市 やちよ」と定め、まちづくりの基本目標としています。

この将来都市像実現のための柱の一つ「産業活力都市をめざして」の、商工業、農業、観光に係る構想として、八千代市第3次産業振興ビジョンを策定いたしました。皆様のお手元資料6、A4の冊子になります。

令和2年度は、八千代市第3次産業振興ビジョンの、計画期間の最終年度であります。ビジョンに基づく市の取り組みの状況につきましては、この後、各課の所属長からご説明させていただきます。

続きまして人口から見る現状についてご説明いたします。

こちらは、平成30年1月1日と平成31年1月1日現在の1年間の日本の人口の比較になります。内訳を申し上げますと、日本人が約43万人減少しており、外国人は約17万人増加しています。差し引きしますと、全体で約26万人の減少になっています。

次にこちらは八千代市の人口になります。平成30年3月31日と平成31年3月31日の1年間の比較になります。日本人は851人、外国人も391人増加しており、全体として1,242人が増加しています。

八千代市の直近5年間の現状を見ますと、毎年約1,000人、人口が増加しています。10月末現在の八千代市の人口を申し上げますと、19万9,633人であり、あと少しで20万人となっております。

次の表は八千代市の将来人口推計を表した表になります。左側の点線の囲みは実績となっており、右側は推計値になります。毎年人口の増加を続けている八千代市ですが、全国と同様に今後は人口の減少が予想され、推計では令和9年の20万4,718人をピークに、その後は減少が予想されているところでございます。

少し見づらい表ですが、青色が15歳未満の年少人口、オレンジ色が15歳か

ら 64 歳までの生産年齢人口、緑色が 65 歳以上の老年人口となっております。表を見ますと人口の減少とともに、生産年齢人口も減少し、老年人口の割合が増加しているのがわかります。

ここからは産業別にご説明いたします。初めに商業からご説明をさせていただきます。

こちらは市内の事業所数のグラフになります。平成 11 年と平成 26 年で比較しますと、事業所は約 34%の減少、従業者数は約 19%の減少となっております。前のグラフと比較しますと、事業所の減少より従業者数の減少が緩やかであることがわかります。

こちらは売り場面積のグラフになります。平成 11 年と平成 26 年で比較しますと、売り場面積は、約 30%増加していることがわかります。このことから、大型店舗の進出が見て取れます。しかしながら、売り場面積のグラフの形が山なりとなっていることや、年間商品販売額が約 27%減少していることから、大型店舗につきましても、厳しい状況になっていることがうかがわれます。

続きまして、工業についてご説明いたします。

こちらは市内の 2008 年から 2017 年の、製造品出荷額のグラフになります。平成 28 年から、過去 5 年ベースで見ると、安定と増加傾向にあることがうかがわれます。しかしながら、内閣府の報告では、景気は力強さを欠いており、今後は海外経済のリスク要因も多く、戦後最長の景気拡大を続けられるかどうか、楽観できない状況であると言われていています。

続きまして、農業についてご説明いたします。

まず、耕作放棄地ですが、平成 7 年度時点で約 55 ヘクタールだったものが、平成 27 年度には約 141 ヘクタールとなっており、約 2.5 倍に増加しています。

では担い手の数はどのようになっているかと申し上げますと、平成 7 年度の時点では、農業就業人口が 1,719 人でしたが、平成 27 年度には 950 人と大幅に減少しています。

このように、耕作放棄地は増加し、農業就業人口は減少傾向にあります。農業産出額を見ますと、統計処理の方法が変更されており単純な比較はできないのですが、ほぼ横ばいとなっている状況であります。

農地及び担い手が減少傾向の中で、農業産出額はほぼ横ばいという状況を見ますと、現在、営農継続している農家に、農業経営が集約されている可能性があります。主たる農業生産の水準が保たれているのではないかと分析しております。

続きまして観光についてご説明いたします。

こちらは平成 24 年から平成 28 年の観光地の入れ込み客数の表になります。祭りやイベントにつきましても、天候に左右されますので、単純に比較することはできませんが、観光地点の増加理由につきましても、農業交流センターの開設

が大きく影響を与えています。様々なイベントや農業体験によって、農業と市民の交流の場として、年々訪れる方が増加しております。

産業振興ビジョンの現在の取り組みにつきましては、各産業を所管しております、所属長からご説明いたします。

事務局（渡邊課長）

商工観光課長の渡邊です。改めましてよろしく申し上げます。商工業の現在の取り組みについて、説明をさせていただきます。失礼して着座にて説明させていただきます。

初めに資料の簡単な構成等を説明させていただければと思います。初めにこちら、資料6、八千代市第3次産業振興ビジョンをご覧ください。こちらの第3次産業振興ビジョンでございますが、本産業振興審議会での審議を経まして、平成24年に策定をいたしましたもので、前段に、八千代市の人口、土地利用や産業に関するデータを記載させていただいております。

続きまして、商業、工業、農業、観光の産業の分野ごとに、現状及び課題及び構想を掲げております。こちら産業振興ビジョンの16ページをお開きください。あわせて、資料7の表をご覧ください。あわせて、資料7の表をご覧ください。

こちらが商業の構想となっております。産業振興ビジョンの内容を、資料7の表の左側、番号1に引用してございます。また産業振興ビジョンの構想の中で、四角で囲んだ中に、プランとして提案がなされております。さらに括弧書きで、担い手として期待されております事業者、農家、行政など、項目ごとに役割が記されております。

この資料7の表の右側に、これら提案されているプランに関連した事業などを含めまして、現在の主な取り組み状況をまとめております。

それでは早速ですが、市や商工会議所等の産業振興ビジョンの取り組み状況につきまして、資料7に沿ってご説明いたします。

商業については10項目の構想を掲げておりますが、1点目「元気な商店の推進」につきましては、商工会議所におきまして、経営対策セミナーや経営力強化塾などの各種セミナーを開催していただいているほか、市の制度融資で、運転資金や設備資金の調達支援を行うとともに、借入金の利子補給を行い、経営力の強化、安定化を図っております。また、創業支援事業計画に基づいて、実践創業塾を実施するなど、創業者数の増加にも努めております。

2点目「後継者の育成」につきましては、経済団体、金融機関、県及び市町村の参加により設立されました、事業承継ネットワークちばに参加し、商工会議所、千葉県事業引き継ぎセンターなど、関係機関と連携した相談の解決に向けた体制を整えているところでございます。

3 点目「元気な商店街の推進」につきましては、商店街が維持管理するアーケード、アーチ、街路灯の修繕に対しても、補助金を交付することで、設備に係る維持費の軽減を図るとともに、活性化事業への取組みをお願いしているところでございます。このほか、商店街を運営していない商業団体が、市内で商業活性化事業を実施することに対しても補助金を交付し、後程ご説明いたします「八千代カレー」など、周辺の店舗を含めた商店街のにぎわいの創出に繋がっているものと考えております。

4 点目「大型小売店舗との共存共栄」の検討につきましては、市制度融資に大型店対策に係る融資メニューを設けておりますけれども、現在は大型小売店舗と商店街の対立という構造は薄れてきている一方で、ネット通販の拡大などの、新たな課題への対応が求められているところと考えております。

5 点目「農・商・工・観の連携」につきましては、JA 八千代市により、八千代市特産のにんじんを使ったドレッシングの商品化に際し、市内事業所で製造されたほか、にんじん混ぜご飯のもとを市内事業所、石井食品ですけれども、こちらで製造をし、イトーヨーカドーとイオン八千代緑が丘店等で販売をされております。

6 点目「空き店舗の活用」につきましては、UR 都市機構と締結した協定に基づき、高津団地中央商店街や、地元の高津小学校、高津中学校などと協力し、空き店舗を活用したのにぎわい創出に繋がる取組みとして、高津笑店と称するイベントギャラリーを開催しております。

7 点目、「駐車場の確保の検討」につきましては、現在商店街独自に、周辺に駐車場を確保しているところが多くなっており、また、新たに駐車場及びパーキングメーターを設置、維持管理をするにはコスト面の課題もあることから、今後、周辺駐車場の利用に係る経費に対しての補助など、ソフト的な支援についても研究をして参ります。

8 点目「商店街組織の法人化の推進」につきましては、商店街組織法人化のメリットとして、融資を受けることができる程度となっております。商店街の組織運営体制の強化に必ずしも繋がらず、商業の振興を図れるとは限らないということから、この方針の見直しを含めた検討が必要となっております。

9 点目「道路のバリアフリー化で利用しやすい商店街」につきましては、現時点で実施事例は承知してございませんが、道路の改修工事等に合わせ、道路のバリアフリー化を検討して参ります。

続きまして、工業については、産業振興ビジョンに 6 項目の構想を掲げております。

1 点目「先見の明の工業」につきましては、八千代産の梨と、市の花「ばら」にかけた豚バラ肉を使い、期間限定イベントとして提供されております「八千代

カレー」を通年提供できるようにレトルト商品化するなど、イベントを主催する「八千代を食で盛り上げ隊」を中心に、商品開発等の検討を行っております。

2点目「野菜を使った製品の開発」につきましては、この「八千代カレー」のほか、先ほど商業の中でご説明しました通り、これまでにんじんを使ったドレッシングや混ぜご飯のもとが開発されていますが、今後も地場農産物を活用した、加工食品等の開発を検討して参ります。

3点目「開発に向けた協働（産・学・官等）」につきましては、八千代産学官協同ネットワークの事業の一環として食に注目し、市内パン事業者と八千代高校家政科が連携して、八千代の産品など八千代市にちなんだパンを開発し販売するやちパンプロジェクトを平成29年度から実施しております。ちょうど今年度のやちパンの販売が明日からとなっております。皆さんのお手元には参考として、袋の中に入っていますが、チラシを配布しております。

また同じく、八千代産学官協同ネットワーク事業で、市内蕎麦店から成る「八千代蕎麦の会」と和洋女子大学のコラボメニュー開発事業として、健康と八千代市にちなんだ蕎麦などを期間限定で販売しております。

4点目「農・商・工・観の連携」、5点目「後継者の育成」につきましては、先ほど商業の中でご説明した通りでございます。

6点目「工場、住宅の共生」につきましては、工業地域における住工混在に関し、庁内関係課との意見交換を行い、既に住工混在となっている地域に、どちらか一方を排除するような規制をこれからかけることは現実的ではないため、既存の工場の操業が維持できるための施策を引き続き検討していくこととしております。以上簡単ではございますが、商業、工業の説明とさせていただきます。

事務局（萩野課長）

続きまして、農業の方を説明させていただきます、農政課長の萩野です。座って説明させていただきます。よろしくお願ひします。

資料の6、第3次産業振興ビジョンの農業の方は36ページのところを基本的に説明をさせていただきます。

同計画の中では、農業の基本方針といたしましては、セーフティ&フレッシュということで、安全で新鮮な農業という方針が掲げられております。その中で、構想といたしましては大きく六つの構想が掲げられておりますので、その六つの構想につきまして、それぞれご説明をさせていただきたいと思ひます。

まず①の活気ある農業を目指してにつきましては、こちらにつきましては農業後継者の問題や、安全で新鮮な野菜をいかに消費者に届けるかを課題としてとらえて、そこにどういった取り組みをかけていって、活気のある農業を、農家を目指すということの構想になっております。

現在の取り組みといたしましては、過去からやっているところが、例示で挙げられているので少し文章がちぐはぐになっているのですが、農家の要望に応じて、6次産業化の取り組みを関係機関と協力し、支援していきます。

また、令和2年度で現行の八千代市農業振興計画が終期を迎えるため、計画策定に向けた基礎調査業務を行います。

人農地プランの取り組みを進めていきます。この人農地プランというのは具体的にどこの農地で、どんな農家が将来的に農業を継続していくといったようなものを、現実的に具体的に見つけていくというような作業をやるものが人農地プランとなっております。これをやることによって、農業のプレイヤーが長期的な担保がとれるようなプランというふうになっております。

次に、八千代市園芸協会では、園芸農産物共進会や、各農産物のPR活動を市内に限らず、市外に向け積極的に行っており、関係機関と協力して支援を行っております。

また、労働力の省力化や、環境にやさしい農業のための機械導入に対し補助を行い、農業者への負担軽減を行いました。

八千代市畜産協会では、どーんと祭りで実施される八千代市乳牛共進会等の取り組みを、関係機関と協力し、畜産に対する理解の醸成に努めております。

耕種農家との、耕畜連携で、耕種農家というのは稲作農家ですが、八千代市の農業は、都市近郊ではございますが酪農業が、比較的盛んに行われておりまして、酪農業の振興と、水田の有効活用を両面で図れるような対策として、畜産で使われる飼料を、水田の方で作成するといったような、そういった連携の業務を行っております。

次に、平成30年9月に岐阜県で発生した、豚コレラにつきましては、岐阜県の周面の府県に拡大をしていることから、県内では、発生した場合の対応について千葉県など関係機関と協議をしております。

また、耕作放棄地の関係になるのですが、農地は多面的な、農業以外の多面的な自然を保護する等多面的な機能を持っておりまして、そういった多面的な機能を保全する活動につきまして、多面的機能支払交付金事業というのがございますので、そちらの事業を活用し、農業、農村の有する多面的機能の維持発揮を図っております。そちらが1番の活気ある農家を目指してというところの取り組みになっております。

次に2番の農業従事者の育成につきましては、農家の後継者を育てることは、その仕事に魅力を感じることに喜びを感じる事が大切ということで、その魅力には人それぞれ様々などらえ方があり、例えば、新たな作物の栽培や、効率的な栽培方法の開発などによって収益性を高めることなどが、魅力に繋がりますということで、そのためには、これら開発する能力や経営力を養うことが重要で

あり、後継者育成のための機会を作っていきますといったような点が、農業従事者の育成ということで掲げられております。

こちらにつきましては、農業次世代人材投資、事業交付、対象者、これは新規就農者に交付金が交付される事業になるのですが、そちらを活用して資金を交付し、支援しております。

また、新規就農希望者に対しましては、農業委員会事務局と、あとこちら書いていないのですが、農協さんの方と共同で相談に応じております。

令和元年度より、地域農業の活性化を目的に、千葉県内の新規就農者が定着できるよう、指導農業士、農業士と交流する場を設けることと、新たに設けることになっておりまして、こちらに市内の農業士、指導農業士っていうのは農業を一生懸命に取り組んでいる農家の方になるのですが、そちらをつなぐことによって市、県内の新規就農者と交流を持つといったようなことで農業従事者の育成に繋がるような取り組みをしております。

また、市内の農業士の集まりの中では、こういった取り組みを真似てというか、市内の新規就農者と市内で模範となるような農業経営をしている農業主との交流を、来年度以降、本市でもやっていったらどうだろうかといったような話し合いをしているところでございます。

次に 3 番の安全安心の農作物というところでございますが、農薬や化学肥料の低減を図った安全、安心な農作物の提供が求められております。ということで、それに対する取り組みについては、まず再基盤整備事業や、放射能検査家畜伝染疾患の予防の実施による、安全で安心な農作物の量産を進めております。

また、カバークロープというのは、化学肥料を使わなくても、農地に緑肥になるような農作物を先に植えて、それを農地に還元するような事業があるんですけども、そういった農業に取り組むことにより、地球温暖化防止、自然環境保護の保全に努めております。また景観作物である、蕎麦を遊休農地に栽培する農業生産活動を支援しております。それと、家畜排せつ物の適切な処理を行うため、堆肥舎の設備につきまして、平成 20 年台の後半で支援をして参っております。

次、4 番の八千代市初のブランド品を全国へというところで、こちらにつきましては、なかなか全国というところまでは正直至っておりません。内容といたしましては、八千代市発のブランドを全国に広められればということで書かれております。状況としては、そこまでまだ至っておりませんが、JA 八千代市で作っているやっち和風ドレッシングについては各イベントや、ホームページで JA 八千代市と協力しながら、PR 活動を行っています。次に法人の取り組みとしては、八千代桜というお酒が八千代市で生産されているお米を使って製造し、こちらにつきましても、商業者の方と連携して、現在さらなる普及を図ればということで取り組んでおります。

次に、5番の農・商・工・観の連携ということで、農業が作物を生産し、工業が新たな製品を開発製造、そして商業が販売、またそれらには観光という視点も重要だということ、こちら取り組みもまだ現在進めている状況で、なかなか大きな結果が出ていない状況ではございますが、現在の農政課の方の取り組みといたしましては、商業施設内に市内農産物の販売コーナーを設けるインショップの取り組みをJA八千代市や関係農家の方と協力して進めています。

次に、6番の農業振興と市民の交流の場作りということで、こちらにつきましては、道の駅やちよを活用し、基本的には振興を図っております。現在の取り組みといたしましては、平成30年度から道の駅やちよの指定管理者の変更に伴い、八千代ふるさとステーション及び八千代農業交流センター両施設の一体管理を開始しております。農業を中心とした地場産業の振興及び、都市と農業の交流の場並びに、観光の拠点化に向け、その中で、周辺農地以外にも、農業体験等が広がるよう、事業化に向けた説明会を、農家向けの説明会を開催し各関係機関と連携した、イベント等の開催を行っております。

農政課の方の構想に対する現在の取り組みについては以上でございます。

事務局（神代室長）

観光推進室の神代です。観光の取り組みについて説明させていただきます。着座にて説明をさせていただきます。観光の基本方針としましては2項目ございます。産業振興ビジョンの39ページをご覧ください。

こちらの39ページにある通り、八千代市の観光というのはちょっとピンとこない部分があるかもしれません。

ただ、一般全国的に有名なものや、海山があるわけではないこの八千代市で、どういう観光かという部分に関しては、一般的に泊まりの観光とか、日帰りの観光とか、いろいろあるかと思うのですが、八千代市の中では主に日帰りの観光の項目が多くなっております。

その部分で、どのように皆さんに周知していくかという部分が大きな課題となっているのですが、八千代市にも新川に千本桜というものがあり、都心から1時間という非常に近距離でありながら、自然環境を多く残されていて、農業体験等、今、農政課から説明でもございましたが、農業体験については非常に人気が高く、年々項目も増え、農業体験の話じゃないですけども、特に完熟なし、芋掘りですとか、イチゴ刈り、こういったところはかなり人が集まってきている状況でございます。

そういったものをどういうふうに見つけていくのか、ここの基本方針、発見する八千代とあるのですけれども、その発見するというのは、正直市内の方でもまだまだ八千代市には発見できていないという部分がございます、まずこの最

近の取り組みといたしましては、市内の方にもまず八千代市のことをよく知っていただくという部分から、こちらのクリアファイルを皆さんにお配りしていますが、いくつか資料を入れさせていただいております。

まず一つが、こちらのココシル八千代という縦長のパンフレットなのですが、これは平成29年度に、県の補助金を得まして、観光ガイドアプリとしてリリースしております。現時点では、約277スポットの登録がありまして、30年度でいうと1万8,600件のアクセスがあります。この令和元年度で言いますと、10月末時点で1万2,000件ほどのアクセスがありまして、昨年度の同時期から、約2割をアップしたアクセス数となっております。

こういったところでもっとアクセスしていただきたい、ユーザーももっと増やしていきたいというところを今、取り組んでおります。これはスマートフォンとか、タブレットを使ったアプリになるのですが、それと同時期に、こちらのちょっと大きめな八千代ふるさと親子マップというものも、ゼンリンさんとの協定で作っております。紙媒体で、皆さんからの要望も多いもので、これまでなかなか八千代市を紹介する紙媒体というものも少なく、ご要望いただいたところからこちらの方も配布しております。

加えまして、こういったいろんな周知をすることによって、もう一つあと周知ものとして、チラシを1枚入れさせていただいているのですが、こちらは八千代市のイメージをお伝えするポスターということで、八千代市内の施設もそうですけれども、市外の道の駅ですとかそういったところにも掲示依頼をしております。こういった八千代市のこんなところがありますよというものを、まずイメージ的に周知していきたいということで作っております。

また、こういった桜の素材とか、バラの素材とか、こういった特にバラ園というものは近隣、関東近縁でもかなりの規模を誇る、有数のバラ園ですけれども、こちらのドローン撮影した動画を今YouTube上にアップしております。アクセス数は、YouTube業界の皆さんの競争が激しくて、我々も周知しきれない部分もあるのですが、今まで5つの動画を桜、バラ、花火大会とか挙げてありまして、合わせてまだ2,500件程度でしかないのですが、これも周知に使っていききたいと思っております。

また1枚、先ほど千本桜の周知がありましたけれども、八千代市の観光素材といたしまして、こちらサクラの並木のものがありませんけれども、河津桜というものは、2月から3月にかけて、咲くものです。新川沿いに咲いている約700本の桜というのは県内、もしくは関東近縁でも有数の1ヶ所に咲いているものとしては、数として紹介をさせていただいてありまして、そういったご紹介もあります。市のホームページ等、先ほどのアプリの中でも、開花状況を3年前から発信しております。

そういったことから、なかなかいらっしゃる方のカウントというのは難しいのですけれども、近隣の道の駅の方等に確認しているところ、年々増えてきているという感触のお答えはいただいております。こういったところから、八千代市の周知をまず図ることによって、少し活性化を進めていると思っております。

2番に繋がるのですが、ただその周知するだけでも難しい。結局は観光に来て八千代市でどういうふうにお金落としていくのかといった部分についてもこれからは見ていかなきゃいけないということも含めまして、八千代市には観光振興懇談会というものがございます。今回参加していただいている市川先生にもご協力いただきまして、その中で八千代市の観光業に携わる方とのご意見交換をさせていただいております。今回はその観光振興懇談会を活用いたしまして、来年度に向けて、八千代市の観光振興計画、まだ仮称ですけれども、こういったものを策定しようとしております。八千代市の今説明した、いろんな素材がありますけれども、これをどういった方向に生かしていけばいいのか、具体的にどういったアクションに取り組みればいいのかという部分も、改めてきちんと資源調査、観光資源調査することで、明確な方向性を定めていきたいというところで現在進めております。

その中で、八千代市の素材だけではなかなか厳しいものがありますので、近隣市、特に船橋市ですとか、佐倉市と地域間連携というものも現在進めており、特に船橋の観光協会さんが八千代の八福神の素材を使うとか、バラを活用、もしくは道の駅、もちろん桜も活用したバスツアーを年間に何本か出していただいております。主に、船橋さんからの参加になるのですけれども、こちらの方では比較的地域とか、時期とかにもよるのですけれども、好評を得ていると伺っております。

こういったことを踏まえまして、今後も八千代市の観光について、いろんな連携を深めていきたいと思っております。説明は以上とさせていただきます。

飯田会長

はい。ありがとうございました。それではただいまの説明につきまして、何かご質問等がございましたらお願いいたします。はい。どうぞ。

市川委員

秀明大学、市川です。

意見として申し上げさせていただきますけれども、商業、工業、農業の三つと観光との連携という点では、まだ非常に希薄なのかなという印象がぬぐえません。あえて言えば、商業については、商店街の例えば活性化というビジョンが出ておりますけれども、これについても観光客を誘客して、観光客による商店街の

活性化という手法もありますし、今はカフェの1軒、1軒のラーメン屋で十分に市外からお客様を呼べるというフードツーリズムという観点から、もう少し様々な店をフィーチャーして、表に出すべきと考えます。

また、工業におきましても、この八千代カレーとか、或いはやちパンというのは非常に取り組みとして私は非常に素晴らしいと思いますけども、やはりこれも観光客の誘客に結びつけるという点において、もう少し深い取り組みをしていけば、特に八千代市に来なければ食べられない、というようなオリジナリティのあるものを開発していけば、十分にこの工業においても近隣の町からお客様を呼べる形になると思っています。

一方、農業においては、先ほども農政課の方、或いは観光推進室の方からもお話がありましたように、私も八千代農業交流センターはこの近隣の町からの観光客の誘致という点で非常に素晴らしい実績を上げていると思っています。しかも結果として体験プログラムの実績においても他の道の駅に比べても、大変大きな数を大規模に誘致しているので、大変素晴らしい実績を上げていると評価できると思いますし、今後もここを拠点にして、農業と観光の連携を図っていただければと思います。一旦以上です。

飯田会長

ありがとうございます。貴重な意見ありがとうございます。

個人的な意見ですけど、確かにラーメン屋さん1軒で大分お客さんと呼んでいますよね。そこの金ちゃんラーメンなんか週末に行くともう並んでいますね。オーナーに聞くと、やっぱり市内の方だけではなくて市外からわざわざその味を求めてくるという風に聞いていますので、確かにおっしゃる通りだと思います。

これについて事務局から何かご意見ございますか。よろしいですか。

事務局（神代室長）

ご意見ありがとうございます。言われた通り、私どもも体験プログラムについて非常に注目しておりまして、先ほど説明させていただいた、資源調査、計画の中にも重点的に盛り込んでいくつもりでございます。

あとフードツーリズムという部分に関しては、本当にラーメン屋、カフェ、これすごいところあるよねっていうのはSNSで発信された途端に非常に人気を博するという部分もあると思います。その発信の仕方等については、今、ココシルやちよの中でも、全体的にカフェの紹介ですとか、ラーメンを紹介させていただいているのですけれども、もう少し刺さるような形、SNSにどうだというのは、研究して参りたいと思います。

飯田会長

はい。ありがとうございます。(加えてでいいですか。) はいどうぞ。

市川委員

加えて、工業部分のところで一つお願いしたいのは、3の施設観光です。

例えばその工場の内部を見ていくような、或いは工場だけの形を見ると、それぞれ実は工業においても、観光のネタになるところがありますので、こういったインダストリアルツーリズムを是非とも発掘し、観光の方につなげていただければと思っています。

飯田会長

はい。ありがとうございます。

これは個人的ですけれども以前、小久保製氷さんは中を工場見学させていただいていたのですけれども、今はさせてくれないですね。確か。

事務局（神代室長）

伺っているのは、年に何回か限定的に小学生ですとか、そういったことはやれるのですけれども、恒常的にずっとやるとなると、受け入れできるような設備となっていないということで、なかなか難しいと伺っております。

飯田会長

今、市内の工場で見学ができる工場というのはどのくらいあるのですか。

事務局（神代室長）

市内工場で、石井食品さんはちょっと限定的になります。あと、コーシン乳業さん、こちらも若干限定的な形ということで、どちらの施設も工場見学を受け入れが出来る前提では作っていないということや、食品衛生上の問題もありまして、なかなかたくさん広げるのが難しいと伺っている状況です。

飯田会長

ありがとうございます。(よろしいですか。) 浅野委員どうぞ。

浅野委員

東洋佐々木ガラスさんも、小学生などを少し受け入れているという話は聞いております。以上です。

飯田会長

はい。ありがとうございます。どうぞ。

橋山委員

確認ですが、多分、第3次産業振興ビジョンを作ったときから比べて、一番産業として出てきているのは、倉庫とか物流施設が着工してきていますので、そういう産業という意味では、どこに入るのかなという。多分、産業の分類からいけばサービス業なのかなということも思いますが、実際その工業の方に近いのかなとも思いますが、どこに入って、どういう形でやっているのかの確認をさせていただきたいと思っています。

飯田会長

ありがとうございます。これについて、事務局の方。

事務局（渡邊課長）

主に工業団地の中に所在していると思うので工業に入るのかと思いますが、それについてまた今後、整理について考えて参ります。

飯田会長

はい。ありがとうございます。確かに物流センターが、ものすごく多くなっていますよね。浅野委員、これは何故ですか。やはりニーズが高いのですかね。

浅野委員

現実的にはやっぱり人手不足の問題等々、それこそドライバーの人手不足、すべてにおいて人手不足によるものだと思いますけれども、大量生産してね、コストを下げるその話に繋がってしまうと思っています。

今後もどんどん増えるでしょうし。印西の方に行けば、もう倉庫だらけになっているのが現状です。

橋山委員

その件ですけれども、今やはりこちらに大型の物流施設ができてきているのは、結構人口が多いってことで、やっぱり労働人口が非常に採用しやすいって面があって、柏とかちょっと行くと、人がなかなかもう集まらないっていう現象が起きていますので、そこでアクセスの面と、道路も含めてなのですが、パートさん含めて、積極的でまだ人口が増えていて労働人口が確保できるというところで増えているということも聞いていますので、その辺が地域の住宅の

関係とか、働ける労働力、その辺との関係、これからも、まだまださっきの人口が減ることもあると思いますけど、まだ出てくる可能性があるのかなというふうに私は思っています。

飯田会長

はい。ありがとうございます。はい、どうぞ。

土井副会長

観光の方で、私は、道の駅に出荷しているのですが、今年河津桜まつりの時に道路すごく渋滞しちゃったのですよね。地元の島田の人が搬入するのに1時間近くかかったっていうようなことがあるのですよ。来る人はいいのですが、駐車場がそこにできないかなと思って、例えば佐倉みたいに田んぼを一時的に埋めて、チューリップまつりの時に駐車場として使っているように、八千代でも駐車場。ですから16号線も渋滞するのですよね。それを聞きたいですけど。

飯田会長

はい。ありがとうございます。はい、どうぞ。

事務局（萩野課長）

はい。こちらにつきましては、農政課の方で、今年度の補正予算で、ふるさとステーションの隣接の水田を、約5000平米用地買収する予定になっております。すぐに本格的な整備はちょっとできないと思うのですが、工事費の予算が取れば砕石舗装みたいな形から入って、何年かかけて土地利用が図ればというふうに考えております。大体100台から200台ぐらい。あそこのイチゴハウスの反対側、法人米本の一番反対側の辺りです。

飯田会長

確かに16号大渋滞でしたね。たまたま通りかかって何でこんなところで渋滞しているのだと思ったら、凄かったですね。

市川委員

観光客が来るという観点からいくと、観光において一番重要なのが観光インフラの整備でして、例えば、トイレがしっかりと綺麗なものがあるとか、或いは、駐車場が確保されている。或いはお客様が休むベンチがしっかりとあるとか、その辺をしっかりとした中で観光のプロモーションをすると。プロモーションを初めじゃなく、まずインフラ整備をしてから観光誘客すると。

それでないとなかなか来た人が先ほど言った大渋滞に引っかかってしまって、逆に苦情しか今度は出なくなる。それで SNS に発信された時に、観光地としては非常に大きなダメージを受けるという形になりますので、まずは観光インフラの方を先にすることが、やはり非常に肝要かと思います。

飯田会長

ありがとうございます。他に。はい。あと、何か。

田中委員

商店街の活性化の件ですけれども、既存の商店街については、やはり事業者の高齢化が進んでおまして、中小商店だと大きな大型店舗に勝てないということではいろんな問題があると思います。その中で、特に駐車場の問題が先ほど出てきましたけれども、見ると新たな駐車場とかパーキングメーター等を設置するには維持管理費がかかり大変だということの中で、今後、駐車場の利用に関する経費に対する補助を、ソフト的な支援を研究していきますということですが、これはぜひやっていただきたい。やはり、さっと商店の中に入って買い物できるというのにはパーキングメーターとか、そういった方が非常に便利だと思うのですよね。ですからその辺もぜひ検討していただきたいと思います。

それから空き店舗対策についてですけれども、まだ八千代の場合、空き店舗対策の補助金がちょっと進んでないと思います。隣の市で恐縮ですけれども、船橋市で施設整備費とか、建物賃借料それから、備品の購入費を補填する空き店舗の対策事業補助金制度がございますので、是非、八千代の方でもそういった補助金制度を創設し、空き店舗を少なくする方策をやっていただきたいと思います。

それから創業の関係で、創業支援いろいろ八千代市との特定創業支援事業ということで、創業塾を会議所でもやっているのですけれども、商店街の高齢化が進んで店主が少なくなっており、後継者対策をしっかりとやっていかないと、実際に起業する事業者をふやしていくということが必要だと思いますので、ぜひ創業塾から、起業を創業活発化して、できるだけ多く起業する事業者を増やして、実際に商店街の起業につなげていくということが必要だと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

飯田会長

はい、ありがとうございます。これについて事務局から何かございますか。はいどうぞ。

事務局（渡邊課長）

いくつかの課題についてご指摘ございましたので、商工会議所さんとも連携協力しながら、解決に向けて検討して参りたいと考えております。

飯田会長

はい。ありがとうございます。他に、山崎委員どうぞ。

山崎委員

商店街の現状がどうというのはありますけれども、大型店の進出によって、この店舗がどんどん減って、その結果、空き店舗ができると、こういう繰り返しをやっているわけでございます。そういう理解で活性化できるかというのは、これは長年にわたってやっているわけですが、高齢化に伴い、買い物難民ということになりますけれども、高齢者が買い物できる場所というのは自分の住まいから500mが大体利用圏になります。そうしますとどうしても遠くへ行きませんので、ちょっと隣で近くでとなります。それに合わせてやってくるには、大型店舗が約8割占めておりますので、購買力はそっちに行ってしまうと。昔のような個人の商店さんが空き店舗になっていくということもあるかと思えます。

それから、今の消費者は道を通るだけで、コミュニケーションをとりながら商店街で買い物するというのは非常に少なくなりました。こういう現象があるのだというふうに思います。そういう中で活性化をどうしたらいいのかというのは長年やっておりますけれども、なかなか実を結ばない。もちろん、受け入れ側の商店街にも問題があるので、もう後継者がいないような商店街になってきますから。経営者はほとんど高齢者になってきているということ。

これはやっぱり、若返っていかなくちゃいけないということもあります。それには若い人の支援が大事なかなと。若い人が何かを商売しようというときに、何を手掛けるか実際にはわからない。やっぱり設備投資が最初にかかってしまうので、どうしても手を出しにくいと。これは商工会議所とも勉強しながらやっていかなきゃいけないと思っております。とりあえず、今年度から、千葉県商工課も含めて、アドバイスをもらいながら研究会をやっておりますけど、なかなかこれというヒット作はありません。

私自身が、いつもそういうことを考えてやっておりますけれども。道の駅というところは非常にいいところです。買い物しやすいし、行きやすいということで。こんな品質を地域の商店街にかぶせてできないかと。これはもう、農業とコラボしながら。それから畜産とコラボしながら。そういうことで、道の駅のミニチュア版を各商店街の中に作っていくと。それに基づいて、産業の活性化を起こすということが一つのやり方かなというふうに思っております。

そういう意味ではやっぱり連携が大事なのかなと。商店街だけでやろうと思

うから、無理がある。農家さん単独でやるのも無理があると。そのところをどうやってコラボしていけばいいのかなというふうに思いますし、生き残り策があるだろうと思うのですけれども、その辺が非常に難しい。

実は、私共も月に1回ずつそういう朝市をやっておりますけれども、農業の人が直接来て、やってくれる。陶芸家が出てきてやってくれると。そういう輪を広めていけば、消費者にアピールができるだろうと。そういう月に一回の商業の朝市、やっぱり人がわっと来るといふのがありますが、毎日には続けられません。

その辺は農業とそれから畜産と、魚屋さんもそうですけれども。今、八千代市のそういうコミュニティの中で、魚さんは商店街の中に1軒しかありません。昔は各商店街に全部あったのですが、今はたった1軒、これが生命線みたいに残っていると。肉屋さんもなくなってきている。それから八百屋さんも少なくなってきている。どうしてもその生鮮三品をどうやって、その地域に割り振っているかというのは、一番大事なことだろうというふうに思っております。

これからも連携をしながらそういうことがやっていければいいなというふうに思っていますので、できればご協力のほどお願いしたいと思っております。

飯田会長

貴重な意見、ありがとうございました。土井委員どうぞ。

土井副会長

道の駅も今、千葉県に市川ができて29個あるのです。そして、道の駅も何とか飽和状態になってきて、あと、JAの直売所やっていて、それ自体、来客数が震災以降減っているのです。世帯が狭くなっているものですから、個人で買う、客単価も低くなっているのが現状なのです。2011年以降、大型店舗の話ですが、野菜の価格の値段が出ないというのは、大型店舗がもう事前に競りにかけないで取引しちゃうのです。競りで取引されるものがなくなってしまったものですから、野菜の価格が上がらない状態ですよ、この何年かは。昔は不作になるとすごい価格が上がったのですけれども、それがなくなっちゃったのです。

そうすると後継者不足、商店街も一緒なのですけれども、私たちも農業で生活していくほどの収入が得られないということで、米の価格もどんどんどんどん落ちて2万4000円ぐらいのものが1万円、小売りで1万ちょっとです。生産者価格が、昔は土地の価格がある程度上がっていたから、兼業農家の方が先祖の土地を荒らさないためにやったのですけれども、その兼業、市役所勤めの方が土日に農業をやったりしていたのですが、それがなくなり、各地区に法人という会社組織の農業組織作ったのですよ。今、ほとんどの地区は60歳以上になっちゃって、そこも後継者ができない状態です。そういうことに対して農政課として現実的

な話。

事務局（萩野課長）

おっしゃる通りだと思います。パワーポイントの方でも紹介がありましたけれども、今、農業を一生懸命やっているのが園芸協会の会長ですとか畜産協会の会長さん世代が今、一生懸命農業をやっているらしい。

実はこの世代の次が、畜産に関してはもう若干ちょっと他の野菜農家と比べると明るい状況ではあるのですが、現状のプレイヤーまで担保されていない状態になっています。そこが非常に問題になっているというところなんです。

そうは言っても上手に農業をやっている人は結構儲けています。なので、そこら辺をこれからもう少し明確にして、八千代市の農業を衰退させないようにするには、戦略的にどう農業に取り組んでいけばいいのかということ、行政として考えていく時期になっていると思います。

今年度と来年度の2か年で、その辺がございまして、まず、農業の今後につきましては、農業の現状について統計、農業センサスとかそういった統計上のデータ、消費者の住民が八千代市の農業に求める期待とかをアンケート調査をするとか、あと農家の方も今後の後継者がどのくらい担保されているのかというような現状をしっかりと分析して、今年度については分析して、来年度その分析結果を基に、具体的にどこから取り組んでいったらいいだろうかといったような、計画づくりをやる予定になっておりますので、そちらにつきまして、ご協力いただきながらやっていければと思っております。

飯田会長

はい。ありがとうございました。どうぞ。

鈴木委員

農業の関係で出たので、土井会長からも。八千代市農協としてもいろいろ、皆さん農家の方の所得の増大っていうか、上がることを目的に、いろいろ工夫はしているのですが、お米の価格、先ほど会長からも出ましたけど、一応その関係で、うちも出来るだけ消費者にいいものを出そうと、生産履歴等を出すとか、農家の方にはかなりいろいろ負担をかけて、その分価格を少しでも上げていこうと。

あと八千代市さんとは学校給食、その関係で地産地消という関係で、学校給食の方にも提供していくと、ただ最近は消費者の関係、学校の教育のPTAの関係があるのかもしれないですが、やはり学校給食の費用を抑えると、だから仕入れの米の値段を下げたいというような、ある程度要望を受けるのですが、うちもある程度、農家の方といろいろやっていた中で、やはりいいものを出してもら

おうと、その中で検査も厳しくやっけていて、その中で、やはり学校や中心の市内の小学校、中学校の方がね、ある程度いいものを食べていただくということで、農家の方と連携しているところですが、そういう点ではちょっと八千代市さんも頑張っていたかもしれませんが最近、圧力が学校給食会から出てきていて、もうこれ以上、下げてくれないのだったら他の地域に幾らでも安いものがあるというような形の要望も出たりするので、そういったところではうまく市の中でも連携を取っていただけたらと。

あとちょっと話は違いますが先ほど市川先生の方から、インフラ整備は確かに大事かなと。バラ園さんも、季節的なところがあると。周りが大渋滞になると、今、八千代市役所さんで、臨時駐車場を設けていただいているのですが、その整備、あとは農家の関係では、農免道路の整備で、あの辺も雨が降ると、かなり泥が激しくなり、排水関係がうまくできてない。あとは川沿いの除草作業。そこら辺も、ある程度市の方も予算が必要なのかもしれませんが、あまりよくできていない。

だからせつかく桜の時期は綺麗にさせていただいているのかもしれないのですが、常にちょっと維持管理をしていただかないと、たまに来た方が川の周りの除草関係が汚いっていうと、周りの景観もよくないので。やっぱり観光を延ばすには常日頃の維持管理、我々もそこら辺は大事なのかもしれないのですが、市役所さんも頑張っていたかいたきたいなっていうのもありますので、よろしくお願ひしたいと思います。

飯田会長

ありがとうございます。これについて事務局から、特によろしいですか。

事務局（神代室長）

バラ園さんの関係ですとか、駐車場の関係というのはいろんなところと言って、先生とも、観光インフラっていうものがとても大事だというのは、認識しているところです。バラ園さんとも、最近連携を深めているところでございまして、社長も含めて、今すごく乗り気で、いろいろやろうとしているところでございまずので、そんな中で、協力できる部分とかはどうにか見出していければなというふうに思っております。

飯田会長

はい。ありがとうございます。どうぞ。

事務局（豊田部長）

浅野委員にお聞きしたいのですけれども、例えば、今出ました京成バラ園周辺なども、多分一番混雑するのは土日だと思うのですが、そういった時に、例えば工場駐車場の利用などのご協力をいただくのは難しいですか。セキュリティだとかそういったものも含めて。

浅野委員

個別具体的な企業の名前はなかなか挙げられないのですけれど、セキュリティの面等々、いろいろな問題を考えると、簡単にいく話ではないかなという感じはしていますが、今までそういったものを検討したことはなかったのも事実でございますので、今度、会議の中で、少しその辺の話題は上げてみたいと思っています。

もう一点、折角こっちにきたので、この会議っていうのは大枠の話をするのであって個別具体的な話をする場ではないという、概念なのでしょうか。

事務局（渡邊課長）

この次の議題でちょっとお話をしようかなと思っていた部分もあるのですけれども、次第の4で、地域産業振興ビジョンについてというのがございます。この現行の産業振興ビジョンが、先ほどの説明でもありましたけれども、八千代市の場合には第4次総合計画の中で、まちづくりの基本となる6つの柱の中の1つである、産業活力都市をめざしての、商工業、農業、観光に係るビジョンとして策定をしたものでございます。第3次産業振興ビジョンの計画期間が、総合計画と同様に令和2年度で終期を迎えます。

そういったことから本審議会の中で、産業分野ごとの課題などのご意見を伺い、現在策定に向けて作業を進めております地域総合計画、この中にボトムアップするなど、整合性を図りつつ、次期産業振興ビジョンとしてまとめていければと考えております。

また先ほど各産業の取組み状況を説明させていただきましたけれども、その中であったように、各産業で具体的な個別計画を策定に向けて動いているという状況もございます。次期産業振興ビジョン、こちら産業振興基本条例の基本方針の通り、各産業が横の連携協力によって産業振興を図ることを目的としたものでございます。

先ほどの市川委員であるとか、山崎委員等ご意見を頂戴しておりまして、各産業の垣根を越えた連携といったご意見があったと思うのですけれども、この次期ビジョンについては、この連携を前面に出したものに出来ればと考えております。そこで、今後の審議会の中で、次期ビジョン策定に向けた検討をしていた

できればと考えておりました、来年度末までに、今回を含め全部で 5 回の会議を開ければと考えております。

各産業の課題、先ほども出ていましたけれども、高齢化の問題であるとか、それに伴って後継者不足はもう産業の枠を超えた話になっているかと思えます。ここら辺の課題について、対策といったものを皆さん方と討議していく中で、ビジョンといったものはまとめていければという中で、個別具体的なものもあるとは思いますが、全体的な連携というところを重視したものにできればと現在考えております。

浅野委員

分かりました、八千代市内での連携というのも非常に理想論ではあるのでしょうけれども、特に観光面に関して考えると、外部、いわゆるその筋のプロとの連携というのね、この先考えたらという気がしています。以上でございます。

飯田会長

はい。ありがとうございます。どうしましょう。どうぞ。

事務局（萩野課長）

さっきちょっと農協さんの方からいただいたところですけど、農業は農業で計画策定、少しそういったその具体的なところも含めて、今後詰めていければというふうに思っています。その時は農協さんの方とどうやって調整を図るかが重要なところになってくると思いますので、学校給食も農業の振興計画に、しっかりとした書き込みができるか。農作物の提供がなければなかなか学校給食でどんどん使っていくことも難しいので、その辺も含めて取り組んでいければと思っています。

飯田会長

はい。ありがとうございます。では、田中委員。

田中委員

よろしいですか。

観光について、八千代をみると新川を中心とする水辺空間とか、新川沿いの千本桜、河津桜並木、道の駅やちよ、農業交流センター、もちろんバラ園さん、それから里山、八福神と観光資源を数えてみれば、いろいろあると思うのです。

観光資源をどうやって、市内、それから市外に発信していくのが大事だと思うのですけれども、その中で今の観光推進を担う団体として、八千代観光賑わい

センターが設立されていますが、ゆくゆくは、観光協会へ移行していく必要があると思います。ぜひ検討していただきたいということです。観光協会ということになると、財政的な補助とか人的な補助というのは不可欠になってくると思います。是非、観光協会を設立していただければ、そこに市民の方の参加とか、賛助会員になるとかも含めて、観光の意識というのが醸成されてくると思います。

それから協会が主体になってイベント等を積極的にやっていけば、当然そこに市外からのお客さんも来るというように繋がると思います。

それから、先ほど市内でと言ったのですが、これからは、広域連携が観光には必要になってくると思います。今度、桜まつりに、佐倉から船を出して、道の駅の交流センターまで来るとか、何かJRと佐倉さんが提携して、何か自転車のツーリズムでこちらまで来るといった話もあるようなので、佐倉にも当然、印旛沼に施設がありますので、それと連携した広域連携をこれから必要になってくると思います。

市としても、いろんな観光アプリ、ココシルやちよ、ガイドマップ八千代、ふるさと親子マップの取り組みを非常に積極的にやっていただいていますし、これからまたYouTubeとかを使った八千代の魅力発信をやっていくということで、是非総合的に観光を進めて、市外のお客さんを取り込む活動を積極的にやっていければと思っています。以上です。

飯田会長

はい。ありがとうございます。はい。市川委員どうぞ。

市川委員

観光について大変たくさんのご意見いただきましたので、私の方から少しだけお話をさせていただきます。

チームラボのプロジェクションマッピングですね。プロジェクションマッピングは基本的に都市型観光の華だというふうに言われています。それは、何もお金の問題だけで、あとは映像する静止物があればいいという。象徴的な、全く動かない静止物が。だから城とか、そういったところにいろいろプロジェクションマッピングあるのですが、それは、都市型観光を進めるにあたって、重要なファクターの一つというふうに思います。

或いは、先ほど田中委員の方から様々な今の取り組みができましたけれど、私も観光協会は当然しかるべきだと思いますので、どの時点になるかわかりませんが、最低限の組織だと思いますので、今、センターさんの方で奮闘しているところをやはり今後拾ってあげなければいけないと思っています。

全体的なその観光という考え方で先ほどの資料をちょっと見ていただきたい

のですけれども、あと9年後にピークを迎えて、10年後からお客さん、人口が減っていくわけです。20万人が17万人になりますので、先ほどのデータからいくと商業のところは、人口が増えているにもかかわらず、売上げが減っている。これは事業者数の減少というところにも関連していると思いますけれども、今後人口が減少するとすれば、さらに加速度的に売上げが減ってくるだろうと。経済の地盤が沈下するということです。

今、観光が何故もてはやされているのかということ、基本的に交流人口、定住人口ではなく外から来る人がお金を落として、それによって定住人口の、経済の地盤沈下の補足材料にしていくということで、日本の国を挙げてやっているわけです。世界中の国がその考え方でやっているわけです。

それは市町村にも全く当てはまることで、我々というか観光の観点からすれば、この人口減少が始まる10年後を目指して今からどのような手を打っていくのかということですね。特に海外からのお客さんが、全く今来ておりませんので、10年後どこの国の人か、八千代市に来ていただけるのかということも含め、大きな魅力を感じてもらえるようなコンテンツを整えていくと。

それが、先ほど言ったプロジェクションマッピングとか、様々に今の既存の観光資源のブラッシュアップとかということに繋がっていくと思います。

飯田会長

はい。ありがとうございます。

それではちょっと話も尽きないところでございますけれども、時間もありますので、次の議題に移らせていただければよろしいでしょうか。はい。

先ほど事務局の方から出ていましたが、それでは続きまして議題4 次期産業振興ビジョンについて事務局より説明をお願いいたします。

事務局（渡邊課長）

次期産業振興ビジョンにつきまして先ほどお話をさせていただきました。連携面を前面に出したもので作ればと現時点ではこちらの方で考えているところでございます。皆様のご意見を伺いながら、5回の会議の中で形にしていければと考えております。よろしく申し上げます。

飯田会長

はい。ありがとうございます。

この件について、特によろしいですかね。高橋委員どうぞ。

高橋委員

私は何も発言していませんので、言わせてもらいますと、この産業ビジョンもいいですけども、その前に八千代市は、交通道路の状況が悪すぎると思うのです。

いま、緑が丘から島田台に行く県道は1本だけですよね。それと、印西の方から16号で来ている道。あそこで止まっていますね。あれを早く作るとか、296のバイパスの佐倉から来て16号で止まって全然進まない。みんな一直線でいけないのですよ、クラंकになって。クラंकになるから渋滞もするし、道路事情も悪すぎると思うので、産業ビジョンの前にその辺をもっとしっかりしないと、他所から人に来てもらうにも来てもらえないです。駐車場も大分限られていますから、交通道路事情が悪いなら悪いなりに公共機関でバスとかで安くするとかいったものも真剣に考えないと、何をやっても駐車場の問題だとかそういうところで、みんな行き詰まってしまうと思います。市として、予算の関係もあるかと思うのですけれども、そこをしないと、未来はないと思います。

飯田会長

はいありがとうございます。担当部署ではないと思いますが。どうぞ。

事務局（豊田部長）

いま、道路のお話でいろんな方から聞いておまして、例えば296号バイパスや、そういったものをどうやって早く進めるのか。296号バイパスと合わせまして、新川大橋通りの佐倉との連結に向けて都市計画道路341号線の整備について上高野の辺で進めて、あとは先ほど言われました緑が丘西、八千代西高の方から、今の県道船橋印西線の方に抜ける道の整備、その交差点に右折レーンの整備、構想的には千葉から16号に来て止まっていると。あれも構想的には、今言いましたその間の交差点の方に抜けるような構想はあるんですけども。なかなか進んでないような状況でありますので、その辺も含めて、都市計画道路網の整備だというふうに考えておりますので、その辺につきましては、担当部長の方にも、お話はあった旨は伝えておきます。以上です。

飯田会長

はい。ありがとうございます。あとは特に、山崎委員どうぞ。

山崎委員

いま、高橋さんの方からいろんな話が出ましたけれども、八千代の名物になるような観光資源は、どこにあるのかなど。昔は桜が咲けば、村上緑地公園中が花見でいっぱいでした。そういうのがあるのですけれど、今は無いのですよね。だ

からせっかく千本桜を作っておりながら、この間の台風でほとんど倒壊している。

飯田会長

そうなのですか。

山崎委員

はい。それを復旧するのか分からないのですが。倒木がもうぎつとあるという。桜があっても、全然もう枯れちゃって駄目と。そういう後始末とかフォロー、維持管理がちゃんとできないと、観光的にはなれない。ですからそのことの整理をやっぱりちゃんとしていかなきゃいけないと思います。せっかく村上緑地公園なんかも今もうほとんど花見なんかいいですね。

せっかく千本桜作ったら、みんなが見に行きたいような維持管理が一番大事だと思いますので、ぜひお願いをしたいと風に思います。

飯田会長

はい、ありがとうございます。他、よろしいですか。それでは議題4まで終わりましたので議題については、これで終了させていただきます。

続きまして、5番でその他でございます。ちょっとお話を聞ければと思います。

先ほど事務局から説明がありました産業振興ビジョンの基となる、産業振興基本条例の基本方針で産業の振興は、事業者の自助努力を基に市、事業者、産業経済団体及び市民が協力して推進するとされています。本日は各産業、市民の代表の方々にお集まりいただいておりますので、産業の連携について、また、ちょっと先ほど話題が大分出ておりましたけども、消費者の目線で要望等ご意見など、一言ずつお話いただきたいと思いますがいかがでしょうか。

ちょっと時計回りで、商工会議所田中委員から、はい。

田中委員

連携ということですが、いわゆる農商工連携を進めていかなきゃいけないということで、会議所でも地域開発委員会というのがありまして、農商工連携について研究しようということで、大分前ですが、いろんなところ、先進的な事例とかそういうのを見に行ったことがございます。ただ、なかなか農商工連携も、農業と商業と工業とやっぱりそれぞれ考え方が違うというのがございまして商売のやり方が違うというようなこともありましてなかなか難しいのですけれども。

ただ、会議所としても22年から産学官共同ネットワーク事業を始めました。

最初は工業を中心に工業製品の新品とか新技術の開発といった産業のニーズと大学のニーズをマッチングしようということをやったのですけれども、なかなか新しい新製品の開発は難しいです。工場はあるのですけれども、研究の主体機関は大きな会社ですと本社、東京の方にあるとか、別のところにあるというようなこともあってなかなか難しい。

そういった中で食に注目しようということで、先ほどお話出しましたけども、八千代蕎麦の会さんと、それから和洋女子大の管理栄養学科の学生さんとで新しい蕎麦の開発メニューということをやりました。それで、新そばについては蕎麦の会さんが、こういう形で作った新そばを出しているということもございます。

それから先ほど言ったやちパンプロジェクトですか。これも、市内のパン屋さんと県立八千代高校の家政科の生徒さんとのコラボで、八千代産の農産物を使ったパンとか八千代らしさを出したパンということで、これも3年目に入っております。ここには八千代産のものとしてにんじん、小松菜、いちご、キウイとかを使ったパンを八千代高校の生徒さんが考えてくれて、それをアレンジして作るということで、だんだんこれは市民の方にも周知されてきて、かなりの件数のパンが売れております。来月早々また始まりますけどもね。前は去年6,500個ぐらい出たということでだんだんだんだん増えてきたということです。これについても市内だけじゃなくて、市外からも来るようなイベントにできればなと考えております。パンは結構市外の人を呼べると思います。有名なところでは、松戸に非常に有名なパン屋さんがあって、カレーパンが非常に有名で、もう行列を作って並んでいるというような話も聞いたこともございまして、パンのまち八千代みたいな形で将来的にはPRできればと思います。

あと、ブランドセレクションという事業も去年から始めておまして、農協さんでも、やっち和風ドレッシング、にんじんを使ったドレッシングを出していただいて、ブランドセレクションということで選ばれています。それからタミコーフーズさんのにんじんドレッシングというのは、この前、ブランドセレクションに認定されております。それからグランプリでは、八千代桜の大吟醸。これは八千代産の米を使ってできております。

こういったことで是非、農商工連携を、農業と商工業を、食品会社もいっぱいありますので、その連携が非常に大事だと思います。私は以上です。

飯田会長

ありがとうございます。それでは山崎委員。

山崎委員

はい。先ほどから出ていましたように、私共もそうですが、八千代の産業はバ

ラバラにあるのですけれどもそれが、どっかでコラボできないといけないと。

商店街も待っているだけでは駄目なので、とにかく畜産さん、農協さんとコラボしながらそういう風に共有できたらいいなと思っています。

改めて、こういう席だけじゃなくて、他にも、そういう場面を作っていただければありがたいと思いますね。よろしく。

飯田会長

はい。ありがとうございます。それでは浅野委員。

浅野委員

はい。工業団地の方からですけれども、いろんなところと連携しながら製品を新しく開発する等々、個別企業の話にもなってしまうのですが、そういったもの。また先ほど、少し駐車場とかを工場で上手く活用させていただけないかという話も、ちょっとね、長い目で考えていく問題かなと思っています。

ただ、緊急にこの八千代の工業団地の中で、住宅との共生をどうするかが一番の課題です。何十年とやってきた工業団地の真横に住宅ができて、うるさい、臭い、振動がすると、本当に昨日今日来た人間に追い出されるというのは、これは現実の話で、その工場で何千、何十、何百人という従業員を抱えていても、本当に後から来た1人2人の、クレーマーと言ったら怒られますけれども、法律の範囲の振動であり法律の範囲の臭いであっても、毎日のように会社に文句の電話が掛かってくるようになってしまうと、なかなか共生というのが難しくなる。

そもそも、八千代の工場専用地域は上高野だけだと確か認識していますけれども、それ以外はどこに家が建ってもおかしくない状況になっておりますので、工場とどう共生していくのか。ここにはね、少し消音材みたいなもので少し入れてくれると、という話もありますけれども、その程度で到底収まるレベルではない市民の強い圧力がきていますので、今後、工業団地はみんなでいろいろ相談しながら、考えていかなくちゃならない問題だと思っています。以上でございます。

飯田会長

はい。ありがとうございます。それでは鈴木委員お願いします。

鈴木委員

はい。私の方は農業関係もあるので、今までも各業態と連携させていただいていると。商業関係においても飲食、産直という形で、いろんなスーパーさんに出させていただき、工業についても、先ほどお話があったように、加工品、石井食品さん等との連携をさせていただいています。

あと、観光についても、うちの内部では農協祭みたいな形で収穫祭というのを年2回やらせてもらって、大体、市民・市内・市外からもある程度のお客さん来ていただいて、農産物をしていただくという形。

あとは市民との関係でも、農業法人さんにやっていただいている農業体験とか、直売所の関係、貸し農園関係があります。ただ、今後、高齢化になるにあたり、市民の方には、農業というか貸し農園で今の農地法いろいろ改正があって、いろいろやれるようにはなってきていると思うのですが、市民との交流関係も今後進めていきたい。

ただ、我々農業協同組合でも、地域の中でやっていかなきゃいけないというところでは、生産者と、商店の関係、工業、色々な方との、今もやっていますが、更に出来るだけの連携をとれるような方向でいきたいと思っておりますので、よろしく願いしたいと思います。

飯田会長

はい。ありがとうございます。それでは土井副会長お願いいたします。

土井副会長

私もにんじんを作っていて、にんじんドレッシングというのを皆さん食べたことありますか。なかなか売っている場所も少なく、値段的にも400円というのは一般のドレッシングに比べるとちょっと高いような気もするのですけれども。なかなか定着しなくてこの前、農協祭の中でも、原価で安売りすることになってしまうのですよね。だけでもそれを続けていかないと私たちの農産物は皆さんに浸透しないし。

あと、一番この頃思うのは、7月まで梅雨があって、長い月だったのですよね。8月は急に暑くて、そのあと三つ台風が来て、こういう時の一番の被害は、やっぱり農家で、すごく私たちは自然災害のリスクを受けやすい産業なので、後継者がいない。高齢化になっちゃって辞めていっちゃう人もいるのですけれども。

それに、自然災害に勝てるようなものっていうのがなかなかできないもので、その辺が難しいなと思います。以上です。

飯田会長

ありがとうございます。それでは市川委員お願いします。

市川委員

はい。先ほどからずっと申し上げておりますので、観光がすべて、工業・商業・農業、あらゆる産業全部にかけ橋ができるという観点からも是非今後も観光に

力を入れていただきたいというふうに思います。一次産業掛ける二次産業掛ける三次産業ということで、観光には、六次産業化という大きな言葉もありますので、そういったことも今後深めていっていただければというふうに思っております。以上です。

飯田会長

はい。ありがとうございます。高橋委員お願いします。

高橋委員

はい。先ほどから皆さん連携というようなこととお話があると思うのですが、このような会議もこの計画策定の時だけじゃなくて常時やるような形にしていかないと、なかなか連携も生まれてこないと思います。そのキーワードになるのは市川先生が言われたように、観光だと思しますので、是非とも八千代市の中で観光協会みたいなものを作って、農商工観含めた会議を常時やっていないと、なかなか連携も生まれてこないと思います。以上です。

飯田会長

はい。ありがとうございます。それでは橋山委員お願いいたします。

橋山委員

やはり外部が、どうのではなくて、まずは市民が住みやすい、楽しめる魅力あるまちづくりからスタートすれば、おのずと外部の方に目が見えてくるのかなと思いますので、確かに首都圏の中で、東京に近いってこともあって、農家とかいろんなところを持っていますので、総合力で連携をとって進めていけば、基本的にいい方向に行くのかなと思っていますので、是非この会をベースにして連携を深めていただければいいかなと思います。

最後に一点、具体的に出来るかどうかわからないのですが、京成バラ園について、よく地方に行くと皆さん知っているのです。ただ、どこにあるの、八千代市だよって言っても、皆さんわからないのです。もし可能でしたら、八千代京成バラ園とか、名前を変えるとか、そういうことをやっていただければいいのかなと。一つの提案でございます。以上です。

飯田会長

ありがとうございます。非常にいいご意見だと思います。

私の印象的では、この審議会は、いろんな分野の方からいろんなご意見が出て、

改めてこういうことが必要だと思いましたが、今後もこれから八千代におけるビジョンの策定でいい審議会だと思います。また、私も審議委員として、都市計画審議会とか農政審議会とかこれ含めて 3 委員会ですらさせていただきますけどこれだけ活発な議論が出る委員会も珍しく、いいと思いますので、今後ご協力をいただければと思います。最後に事務局から何かあればお願いいたします。

事務局（佐藤主査）

先ほどもご説明いたしましたとおり、来年度までに審議会の開催を 4 回程度計画しております。

今回の審議会開催時期は今年度内の 2 月から 3 月頃に開催を予定しております。なお開催にあたりましては事前に日程を調整してから開催したいと考えておりますので、よろしくご願ひいたします。

また冒頭でもお話しました通り、八千代市審議会等の会議の公開に関する要領に基づきまして会議録を作成し、市役所 1 階情報公開班及び市ホームページにて公開させていただきます。この会議録は発言を要約した形で作成させていただきますので、発言趣旨に変わりがないか事前に確認をいたす予定でございます。ご協力のほどよろしくご願ひいたします。事務局からは以上でございます。

飯田会長

はい。ありがとうございました。

12 時には終えたいと思っていましたので、あと 2 分ありますが、何かお話ししたいことがありましたらご願ひします。よろしいですか。

それでは以上をもちまして産業振興審議会終了させていただきます。どうもありがとうございました。

————— 閉 会 —————